

4. 災害・復興支援の取り組み

東日本大震災から3年目をむかえ、被災地で滞在型の直接支援は2012年度いったん終了し、2013年度からは関西での復興活動や支援活動に比重を置いて取り組んだ。関西からできることとして、まず、宮城県のNPOに講師やメンターを派遣して運営支援に取り組んだ。次に、広域避難の問題では、避難者支援に取り組む当事者グループの運営支援、広域避難の課題を考える緊急勉強会、不理解に対する警告を記した特集記事を『ウォロ』に掲載して、課題の啓発に努めた。また、関西にも数多く避難・移住されている人々を支える当事者グループとともに、3回目の開催となる「3.11 from KANSAI 2014」を実施。企業、社会福祉協議会などと連携した実行委員会形式で約4,000人の参加者を得た。関西での実災害支援としては、台風18号の被害を受けた滋賀県高島市災害ボランティアセンターのサポートに入った。一方で防災関連として、関西の災害支援のフレームワークを考える研究会や災害ボランティアセンターの設置訓練に参加し、知識の習得と実践経験を重ねた。

1. 現地NPOリーダー育成支援活動

（1）現地NPOに講師およびメンターを派遣

（日本NPOセンター主催「市民活動団体（NPO）育成・強化プロジェクト」）

岩手、宮城、福島において、被災した地域の中に継続的かつ多面的なNPOの支援を支えるために、現地NPOのキャパシティビルディングとNPOリーダー育成を目的とした事業（日本NPOセンター主催）に、協会より企画運営スタッフ、講師、メンターを派遣した。

1) メンターサポートを通じた現地NPOリーダーの育成

- ・派遣職員：水谷綾、岡村こず恵 ・派遣期間：2013年4月1日～2013年7月31日
- ・派遣日数：概ね月1回現地訪問、あるいは電話やメール
- ・対象団体：宮城県内の4団体 【仙台】みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）、杜の伝言板ゆるる、冒険あそび場せんだいみやぎネットワーク 【山元】ささえ愛山元

2. 広域避難者の支援活動

震災以降、多くの人たちが被災地から関西に避難・転居され、慣れない地で生活をしている。分かっているだけでも近畿で3000人を超える避難者・移住者が確認されている（復興庁調べ、2014年3月現在）。震災以降、被災地支援・避難者支援に取り組んでいる近畿ろうきんと、近畿圏（2府4県）の支援センターが連携をして実施した。

（「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」助成プログラム対象事業）

（1）避難者支援活動に取り組む当事者グループの運営相談

頻度：2団体に、のべ9回（1回平均3時間）の運営相談に応じた。

相談概要：意思決定の仕方、契約の結び方、ボランティアの募集の仕方など、グループ運営の仕方全般について相談に応じた。

（2）広域避難に関する課題の発信と側面支援

① 避難者支援の基本方針に対するパブリックコメントの緊急勉強会

- ・演題：「今、避難者支援はどうあるのか、意見交換会 ～「被災者生活支援の基本的方針」を読み、避難者支援団体とともに考える～」
- ・日時：2013年9月22日（日）10時～12時 ・参加者：12人
- ・会場：CANVAS谷町
- ・内容：支援団体の取り組みと課題、基本方針の課題へのコメント、ディスカッション
- ・協力団体：まるっと西日本、近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度
- ・成果：「被災者生活支援の基本的方針」に対する緊急勉強会を実施したことで、各自が積極的にパブリックコメントにトライする機会を作れた。

② 避難者に対する住宅支援についての緊急勉強会

- ・演題：関西の避難者の住まいは今 ～関西の住宅支援の情報交換会～
- ・日時：2013年12月9日（月）16時～17時45分 ・参加者：24人
- ・会場：CANVAS谷町
- ・内容：まるっと西日本が実施した住宅調査の概要、関西の住宅支援施策の情報交換、



避難者支援の基本方針に対するパブリックコメント緊急勉強会



勉強会の様子が新聞に掲載された（2013年12月30日付京都新聞）

課題の整理

- ・協力団体：まるっと西日本、近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度、3.11 from KANSAI 2014 実行委員会
- ・成果：住宅支援の現状調査を共有することによって、支援施策が各自治体によって差があり、行政とどう向き合えばよいのか疑問や不安を出し合うことができた。また、自主避難者と被災者など立場の違いによる意見の相違をていねいに議論する必要性などが確認できた。また、京都新聞に勉強会の記事が掲載され、問題を広く告知することができた。

③. 避難者支援団体の相談力アップ講座

- ・演題：東日本大震災 支援団体の相談力アップ講座 ・参加者：43人
- ・日時：2013年12月5日（木）13時～16時30分 ・会場：近畿労金肥後橋ビル
- ・内容：避難者の相談対応をソーシャルワークの視点で考える、テーマ別セッション（法律、こども、就労、支援活動に関するフリートーク）
- ・主催：近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度（大阪ボランティア協会は構成団体として参加）
- ・成果：避難者が抱える状況の把握、テーマ別の課題の整理や対策についてのディスカッションができた。

3. 関西からの被災地復興支援事業

(1) 震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2014 ～いま、ともに～」開催

東日本大震災から3年をむかえ、「支援する側—される側」という立場を越えて、「いま」こそ、「ともに」活動する、をコンセプトに、避難当事者のグループや市民ボランティアとともにイベントをつくりあげた。昨年度に引き続き、企業や社会福祉協議会との連携、さらに、避難者支援の当事者団体とも協働した。

これらの新しいネットワークでの取組みは関西発の復興支援の先進取組みとなるとともに、関西で復興支援に関わりたい個人や組織をひとつの場に結集させ、想いを形にするという役割を果たした。

協会は、事務局を担うとともに、企業ボランティア64人の運営ボランティアのコーディネーションを担当。また、来場者参加型企画「復興応援メッセージボード」の企画をボランティアとともに運営。その後1週間、梅田スカイビルにて展示された。

- ・日時：2014年3月9日（日）10時～17時30分
- ・会場：梅田スカイビル、ワンダースクエア、スペース36
- ・主催：3.11 from KANSAI 2014 実行委員会〔(福)大阪市社会福祉協議会／(福)大阪ボランティア協会／近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度(事務局：(特)きょうとNPOセンター)／(一財)ダイバーシティ研究所／(特)遠野まごころネット／ミンナDEカオウヤ(事務局：(株)インサイト)／(特)ユースビジョン〕
- ・運営協力：(認特)トゥギャザー／(株)PRリンク
- ・総参加者数：約4,000人
- ・他の企画内容：有名店のシェフによる「青空レストラン」(1650食、500杯が完売)／避難者と学生による「ありがとうの木を育てよう～笑顔を伝えるメッセージ」(メッセージ数：131枚、訪問者約150人)／復興応援メッセージボード(メッセージ数：172枚)／復興庁とのコラボによるシンポジウム「民間連携による復興支援～関西からできること」(参加者60人)／ろうきんNPOパートナーシップ制度シンポジウム「東北の『今』と『未来』のために関西からできること」(参加者76人、「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」報告会を兼ねて開催)／手仕事の実演と朗読「岩手のお母さん家」(参加者120人)／ブース物販・展示(22団体)／避難者のつどい in KANSAI 語らいテンコ盛り!!(大人48人、こども30人)／関西の学生による復興支援活動交流会(参加者50人)／シークレットライブ、等
- ・ボランティア：約200人(うち、協会がコーディネートしたボランティア：企業人ボランティア64人、復興応援メッセージボード企画20人)
- ・協賛企業・団体：大阪ガス(株)／近畿ろうきん／近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度／産経新聞社／サントリーホールディングス(株)／シャープ(株)／住友生命保険(相)／積水ハウス(株)／積水ハウス梅田オペレーション(株)／センコー(株)／全労済アシスト(株)／大日本印刷(株)／大日本住友製薬(株)／



復興活動に取り組む関西の有名店のシェフによる「青空レストラン」は大盛況



関西に避難された人が、お世話になった人へ感謝のメッセージを伝える。関西からは復興応援メッセージを掲載。

- トップツアー(株)／NEXCO西日本グループ／阪急電鉄(株)／阪神電気鉄道(株)／(株)PRリンク／不二製油(株)
- ・ 出展団体（50音順）：(株)インサイト／大阪市学校給食調理員労働組合／大阪府生活協同組合連合会／
 関西 my do girls／気仙沼さんまカレー／(一社)健康栄養支援センター／(特)さをりひろば／(株)福市／(特)
 遠野まごころネット／生活協同組合おおさかパルコープ／積水ハウス(株)／(福)全電通近畿社会福祉事業団／
 (認特)トゥギャザー／(特)遠野まごころネット／(特)日常生活支援ネットワーク「パーティ・パーティ」／
 (特)日本アウトドアエデュケーションアカデミー／ラブギャザリング／連合大阪〔(株)ダスキン、
 電機連合大阪地方協議会、(一社)エル・チャレンジ福祉事業振興機構、エル・チャレンジ(電機連合)、連合
 大阪大阪市地域協議会〕
 - ・ 後援：(公社)関西経済連合会／(一社)関西経済同友会
 - ・ 協力：ザ・リッツ・カールトン大阪／JR西日本／阪神電気鉄道(株)

4. その他の主な啓発・情報発信およびネットワーク事業

(1) NPO支援センターによる「関西における災害支援のためのフレームワーク研究会（KPF）」の実施 (「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」助成プログラム)

①BCPの研究や防災活動にむけた計画づくりの研修

実際に防災訓練やBCP（事業継続計画）を検討している専門家や関係者を招き、課題を学び、さらに自らの組織でBCPをはじめとする防災活動にむけた計画づくりをめざした。また、生活協同組合、連合など、災害時の広域支援実績のある組織を招いて、災害時の経験を学ぶとともに連携のあり方を模索した。

- ・ 参加団体：(特)わかやまNPOセンター／(特)奈良NPOセンター／(認特)しがNPOセンター／
 (特)シンフォニー／阪神NPO連絡協議会／(福)大阪ボランティア協会

【第1回】・日時：2013年6月15日（土）10時～12時 ・参加者：14人

- ・ タイトル：市民活動の推進団体の危機管理体制、緊急対応を考える ～災害時に求められる役割と機能を果たすために～
- ・ 講師：桑原英文（コミュニティ・4・チルドレン）

【第2回】・日時：2013年8月26日（月）13時30分～17時30分 ・参加者：14人

- ・ タイトル：関西での災害時に備えて、各自のBCPならびに生協とNPO支援センターの連携（平時・緊急時）を考える
- ・ ゲスト：福留 郁織（生活協同組合コープこうべ）、中村 夏美（大阪府生活協同組合連合会）、小川 哲（日本生協連 総合運営本部 関西地連事務局）

【第3回】・日時：2013年12月26日（木）13時30分～15時30分 ・参加者：16人

- ・ タイトル：第1部 関西での災害時に備えて、連合や労福協を知る、そしてNPO支援センターとの連携（平時・緊急時）の可能性を考える
- ・ ゲスト：村田 憲彦（日本労働組合連合会大阪府連合会(連合大阪)）、堂前 健（日本労働組合連合会和歌山県連合会(連合和歌山)）、井出 のり子（(一社)滋賀県労働者福祉協議会(滋賀労福協)くらしサポートセンターしが）、増田まゆ（近畿労働金庫(近畿ろうきん)）

【第4回】・日時：2014年12月26日（木）16時～19時 ・参加者：14人

- ・ タイトル：第2部 関西での災害に備えて、実際の災害対応をふりかえる～2013年台風18号被害に対する滋賀県内の連携事例を通して
- ・ ゲスト：井岡 仁志（高島市社会福祉協議会）、山崎 智文（立命館大学サービスラーニングセンター）、井出 のり子（(一社)滋賀県労働者福祉協議会(滋賀労福協)くらしサポートセンターしが）、平井 育恵（しがNPOセンター・災害支援市民ネットワークしが）

②各災害ボラセン運営等の実践体験から支援のあり方を考える

【第1回】 ・日時：2014年1月23日（木）9時～12時

- ・ 実施概要：枚方市社会福祉協議会より、「枚方市災害ボランティアセンター設置運営シミュレーション」への参加要請を受け、1名（永井美佳）が運営シミュレーションに参加。

【第2回】 ・日時：2014年2月9日（日）9時30分～14時

- ・ 実施概要：新宮市社会福祉協議会より、「新宮市災害ボランティアセンター設置訓練」への参加要請を受け、1名（梅田純平）が評価委員として参加。

【第3回】 ・日時：2014年3月21日（木）13時～17時

- ・ 実施概要：吹田市社会福祉協議会より、「吹田市社協災害ボランティアセンター運営に係るシミュレーション研修」への参加要請を受け、8人（ボランティア7人と梅田純平）がエキストラとして参加。

（2）滋賀県高島市の災害ボランティアセンターのサポート

台風 18 号による被害を受けた滋賀県高島市社会福祉協議会からの要請を受けて、「関西における災害支援のためのフレームワーク研究会（KPF）」で連携しているわかやま NPO センターとともに、同市災害ボランティアセンターに運営支援者を派遣。また同時に、ボランティアを呼びかけ、復旧活動に参加した。

- ・運営支援者：永井美佳、岡村こず恵、水谷綾（大阪ボランティア協会）、土橋一晃（わかやま NPO センター）
- ・ボランティア：紺屋仁志、西誠、北條保、森本聡、梅田純平（大阪ボランティア協会）
- ・活動期間：2013 年 9 月 21 日（土）～9 月 23 日（月祝）
※9 月 20 日（金）、現地調査として舞鶴市災害ボランティアセンターも視察した。



滋賀県高島市災害ボランティアセンターの様子

（3）「被災障害者継続支援『東北⇄関西 ポジティブ生活文化交流祭』実行委員会」への参画

東北で被災した障害者が元気になれる日まで息の長い支援活動を続けようと、2011 年に主旨に賛同する団体で実行委員会を結成。大阪ボランティア協会は実行委員会に参画し、以下のプログラムに参画した。

①「まちなか被災シミュレーションプロジェクトチーム」への参画

ボランティア活動やガイドヘルプ等で訪れた都心で、障害者やさまざまな事情を抱えた人と一緒に被災した場合に、自分ならどうするのかを参加者に問いかけるワークショップ。障害当事者の目線、ボランティア・介助者の役割など、各々の事情を察しながらも安全を確保し、無事に避難することをチームで考える

「まちなか被災シミュレーション」を 2 回実施。

【第 5 回】2013 年 9 月 1 日（日）9 時 30 分～12 時 ・参加者：35 人 ・会場：伊丹市界限・有岡小学校にて

【第 6 回】2014 年 2 月 16 日（日）10 時～13 時 ・参加者：23 人 ・会場：三田市界限・三田市まちづくり協働センター

- ・運営主体：同実行委員会（大阪市ボランティア情報センター、日常生活支援ネットワーク（事務局）、b-free、ライフサポートネットワークいけだ、大阪ボランティア協会）



三田市街を被災シミュレーション中

②「東北⇄関西 ポジティブ生活文化交流祭」への参画

【第 4 回】2013 年 11 月 23 日（土祝）11 時～16 時 ・会場：長居公園にて ・運営ボランティア 49 人をコーディネート

③「ゆめ風基金 ず～っと続けてく被災障害者救援 街頭募金活動」への参画

東日本大震災発生直後から毎月続けてきた募金活動。2013 年度より毎月第 2 土曜日 13 時～17 時、なんばタカシマヤ前にて開催。協会からは、「ボランティアスタイル」のプログラム「募金ボランティア」を通じて、全 11 回参加。

（4）「内閣府防災ボランティア活動検討会」への参画

「内閣府防災ボランティア活動検討会」（9/30、全国ボランティアフェスティバル in 三重とダブル開催）に、事務局・岡村こず恵が会議に参画。分科会「東日本大震災広域避難者の支援を考える」のコーディネーターを務めた。

（5）内閣府「広域大規模訓練ワーキンググループ」「広域大規模訓練」への参画

内閣府が実施する「平成 25 年度防災ボランティア活動関連調査業務」（受託者：㈱ダイナックス都市環境研究所）の一環として実施したワーキンググループ（1/29、3/6）と高知訓練（2/20～21）に、事務局・永井美佳が参画した。

（6）「平成 25 年度近畿ブロック社協災害ボランティアセンター運営者研修企画会議」への参画

近畿ブロック社協が実施する「災害ボランティアセンター運営者研修」（12/17～18）の企画メンバーとして、事務局・永井美佳が企画会議に参画した。また当日は、実践講義「災害 VC における情報発信ツールの使い方を考える」（梅田純平・永井美佳）と、演習「災害 VC から日常の取り組みを考える」（永井美佳）を担当した。

（7）「大阪府災害ボランティアセンターの運営および災害時の支援活動に関わる団体による意見交換会」への参加

災害時の支援活動を担う大阪府内のボランティア・市民活動に関わる中間支援組織や関係団体が、平時から顔の見える関係の中で情報共有を行うとともに、災害時にはより迅速かつ効果的な支援活動を展開するためのネットワーク構築に向けた意見交換会（3/25）が開催され、事務局・永井美佳が参画した

5. 協会の災害・防災戦略の検討

協会の災害支援、復興支援、地域防災、BCP にかかる事業戦略の方向性を検討する場として、「災害・防災戦略ワーキング」を常任運営委員会が時限的に設置。前身となるワーキングを含めて全 6 回開催。方向性が出るまで継続する。